

# きょうから「はちのへ演劇祭」

**八 戸** 八戸市民による演劇イベント「はちのへ演劇祭」が16～18の3日間、八戸市の八戸ポータルミュージアムはっちで行われる。今年には県南地方で活動する6劇団が

上演。本番直前の14日、出演劇団による通し稽古がはっちの舞台で行われた。昨春発足し、今回が初参加の八戸学院大学演劇部も熱演、成長ぶりを見せた。  
(若松清巳)

## さあ本番熱く稽古

### 2つの舞台、試験的趣向

14日は3劇団が舞台上に上がり、スタッフら約30人が出来を確かめた。初日から上演する同大演劇部の作品は「面接室」。部長の長谷川華さん、高坂大誠さんが本番さながらに演じ、高坂さんの南部弁と長谷川さんの津軽弁による掛け合いがスタッフらを笑わせた。



八戸学院大演劇部の舞台「面接室」の通し稽古。舞台を含む会場の天井からは、国内のアンゲラ演劇の名作ポスターが下がる。

舞台に立つのは4度目、うち主役級は2度目という高坂さん。「本番目前。早く完成に近づけない」と力を込め、「演劇祭で他の劇団の演技を目の当たりにするのは勉強になる。自分たちの劇は方言の掛け合いという、観客に身近な笑いが肝。緊張するが、せりふを間違えないようにしたい」と意気込みを語った。会場は一つの室内に二つの舞台が向き合い、作品は交互に演じられる。客は舞



劇と劇との幕あいには舞踏なども披露される

天井から下がるのは、横尾忠則や宇野亜喜良らが描いた1960～80年代半ばのアンゲラ演劇ポスター約100枚。本真出身の劇作家寺山修司主宰の「演劇実験室・天井桟敷」のポスターも多く、会場を独特の雰囲気で満たしている。

通し稽古を見つめた舞台監督の田中稔さん(大黒屋ぶつでゅーす)は「ポスター下での演技や客の移動など、数々の試験的な仕掛けに対する客の反応を見たい」と思っている。芝居小屋に足を踏み入れた際の違和感とともに、6劇団の個性を

見てほしい」と語った。出演は同大演劇部のほか、劇団INTELEVIS TA、大黒屋ぶつでゅーす、I & A、劇団かしの会、まぐねっと.com。前売り券は3日分とも売り切れ。若干の当日席があり、開演1時間前から会場で整理券を配布する。

開演時間、上演日程など問い合わせははっち(電話0178-822228)へ。